



マグニフィセント7という挑戦

令和6年11月3日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

これは企業運営と経営基準を彼らと同じにすることにおいて企業転換を得ることである。これらは次世代という技術基準における企業製品サービスの整備とともに、企業の構築を模索できるのである。

これらは既存現実からの完全な脱却であり、新たな企業システムの構築とともに、時代と市場への参加を再度実現することである。

これらは明確に彼らの有するソフトという理解を基盤とした企業の再構築であり、先端性の確立は、同等もしくはそれ以上の基準を受け入れ、新たな企業運営と経営環境への転換を実現することである。

これらは企業内における明確な合意と社員の育成や新しい社員意識の形成において、企業を完全に新たにすることなのである。

これらは既存現実から、新しい企業経営基準における完全な企業転換を行うことであり、それらは、社員における理解と意識基盤がそれら実現を可能とできるのである。

これらは本来企業の育成が自己の進捗性という正しい進歩をえることと、目標者ビジョンの明示、独創性という自己の理解の拡大における企業経営と企業製品の確立において、時代への参加を実現できるのである。

これらは詳細な計画と目標を明示し、新しい企業風土への転換とともに時代という現実に対してその対等性の確立を実現できるのである。

基準の転換は、それらを最も高く要求することが独創性であり、時代をけん引する正しい企業の選択なのである。

これらは不可能でなく可能であることは、理解という拡大をその基盤から行い、次世代という自己の創造性を実現することでそれを可能とできるのである。